

フットボールスタジアム検討協議会 第4回会議

令和8年8月25日 岡山県庁分庁舎4階企業局大会議室



次 第

- 1 開会
- 2 第3回会議の主な論点及び対応方針（案）
- 3 フットボールスタジアムの整備に関する県民アンケート調査結果（確報）
- 4 岡山県におけるスタジアムのありたい姿
- 5 未利用県有地一覧（4 ha以上の土地）
- 6 主な事業スキームの整理
- 7 県外施設視察の実施報告・まとめ・事務連絡
- 8 閉会

第3回会議の主な論点及び対応方針（案）

① まちづくりの具体的な計画・基本構想の提示

県が定める都市計画区域マスタープランの都市づくりの方針において、「スポーツなど地域独自の魅力を有する資源を生かしたまちづくりを推進し、地域の活性化を図る」ことを示している。今後、場所・立地の比較検証の議論に合わせて、より具体的なまちづくりの方針を示した市町村の都市計画マスタープラン等を提示する。

② 県民アンケート結果の活用方法の整理及び周知

各確認・検討事項を議論する際に、関連するアンケート回答を必要に応じて参照する。

また、次回会議で議論する内容をあらかじめ示すなどして、テーマに沿った意見を求める方法も必要に応じて検討する。

③ クロス集計等による属性別分析

各確認・検討事項を議論する際に整理し、提示する。

④ 未利用県有地一覧の提示

フットボールスタジアムの整備が可能な4 ha以上の未利用地を整理し、提示する。

<第3回会議資料>論点（案）及び確認・検討事項（案）

I 県民理解を得る検討の在り方

プロセス・情報発信の検討 県民参画の在り方検討

II 社会価値・環境負荷など周辺への影響

場所・立地の比較検証

III スタジアムがもつ岡山県への社会的・経済的効果

社会的効果の検証 経済的効果の検証

IV 岡山県にとって望ましい公共性・収益性

施設の在り方検討 事業収支の概算

V 適切な事業規模と負担・回収方法

整備費の概算 事業スキームの検討

県民アンケート調査結果（確報） | 調査概要

第3回会議資料
更新

調査の目的

- ・ 県民から**多様な意見**を集め、論点を整理することで、**協議会での今後の議論における検討材料**とする。
- ・ スタジアム整備に向けた議論・検討が行われていることを**県民に周知する機会**としても捉え、**県民による議論への参加や「自分事化」**を促す。
- ・ **賛成/反対の数や割合を調べるためのものではない。**



調査内容・方法

- ・ 回答者の属性を明記した上で、無記名でフットボールスタジアムの検討を進めていることについて、期待していること、心配していることなど、その理由も含めて自由に記述。
- ・ ウェブアンケートを基本としつつ、誰もが参加しやすいようにするために、紙媒体（FAX・郵便）での提出も受け付ける。

実施期間・対象

- ・ 令和8年6月22日（月）から7月24日（金）まで（現在も回答受付中）
- ・ 主に岡山県民を対象とするが、今後の議論の参考とするため県外在住者も対象とする。

回答件数

- ・ 回答総数：10,796件
うち ウェブアンケート：10,650件
うち FAX・郵便：146件
- 【参考】 期間後8月14日までの回答総数：118件
うち ウェブアンケート：108件
うち FAX・郵便：10件

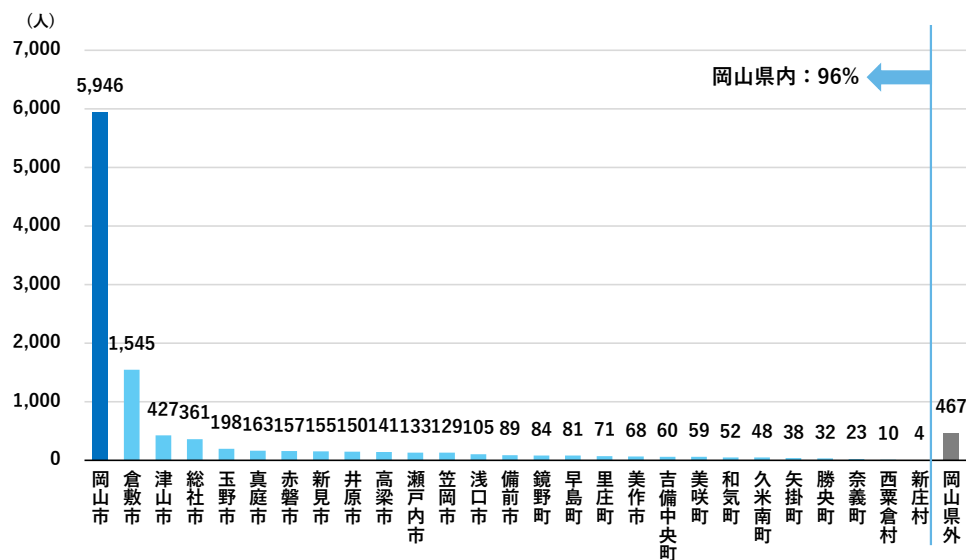
※県立高校生制作の毛筆文字及びイラストをポスター等に使用

県民アンケート調査結果（確報） | 回答者の属性（1/2）

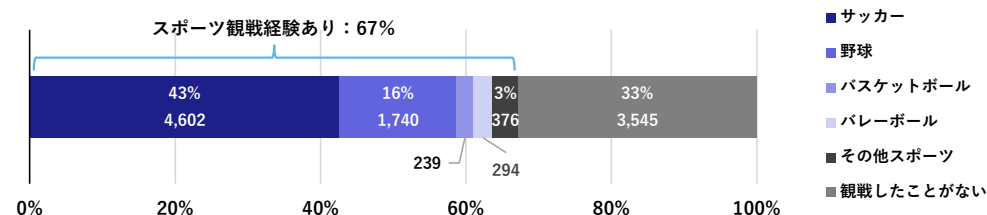
第3回会議資料
更新

- ・ **9割以上が岡山市内在住者であり**、なかでも岡山市・倉敷市の在住者の回答が多い。なお自由記述の内容から、岡山県以外からの回答者の多くは県出身者や将来的に岡山に住む意思がある人が占めると考えられた。【グラフ①】
- ・ 岡山県のうち岡山市在住者が約6割を占めるが、**岡山市以外の市町村からの回答者も満遍なく存在**する。【グラフ①】
- ・ サッカーを最もよく観戦している人の割合が約4割を占める一方で、**他のスポーツを好きな人やスポーツ観戦をしない人からも多く**回答が集まった。【グラフ②】
- ・ **ファジアーノ岡山のファンだけでなく、好きなサッカーチームが無い人からも同程度**の回答が集まった。【グラフ③】

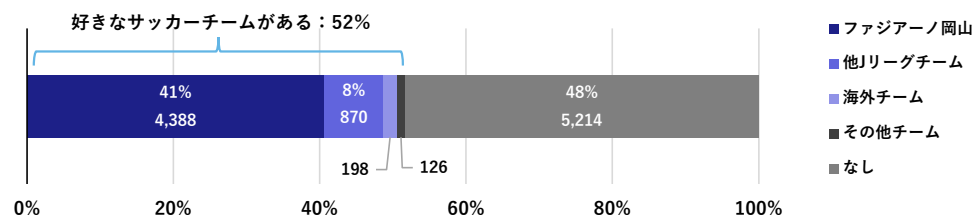
【グラフ①】お住まいの場所



【グラフ②】最も多く観戦しているスポーツ



【グラフ③】好きなサッカーチーム



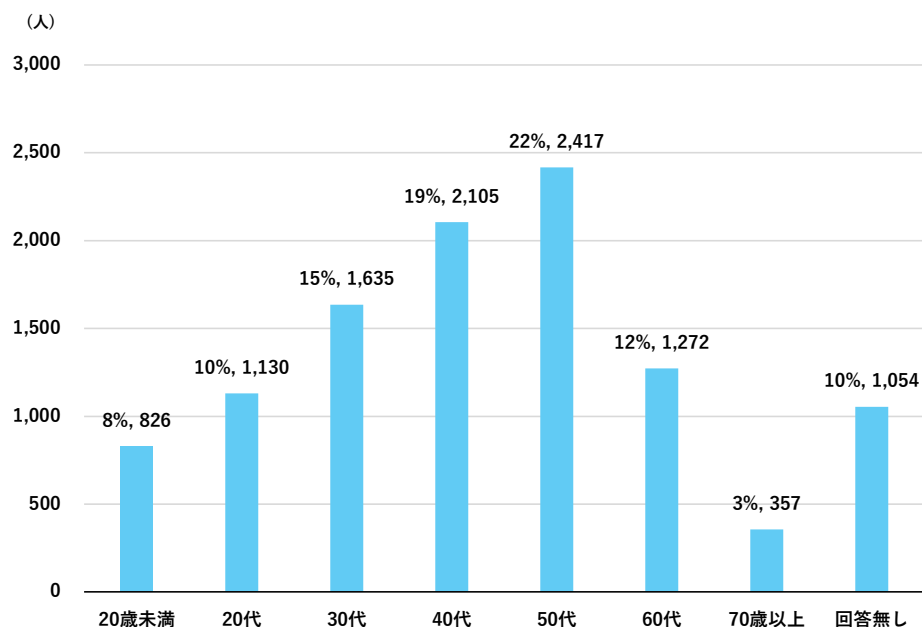
※ 7月24日時点の「フットボールスタジアムの整備に関する県民アンケート調査」回答内容（全10,796件）より事務局作成

県民アンケート調査結果（確報） | 回答者の属性（2/2）

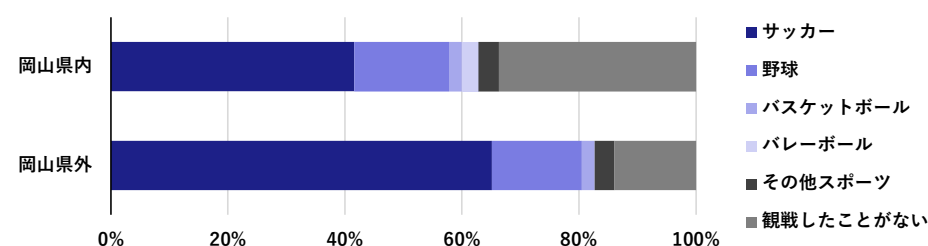
第3回会議資料
更新

- 回答者のうち約4割は40代・50代が占めている一方、20歳未満の回答者が8%（826人）、70歳以上の回答者が3%（357人）と**幅広い年代からの回答を集める**ことができている。【グラフ④】
- 比較的に、**県外からの回答者の方が、サッカーやファジアーノ岡山と関係性のある人の割合が高い**。【グラフ⑤・⑥】

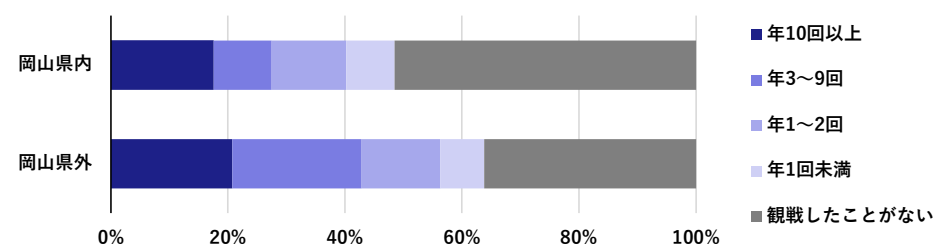
【グラフ④】年齢



【グラフ⑤】お住まいの場所×最も多く観戦しているスポーツ



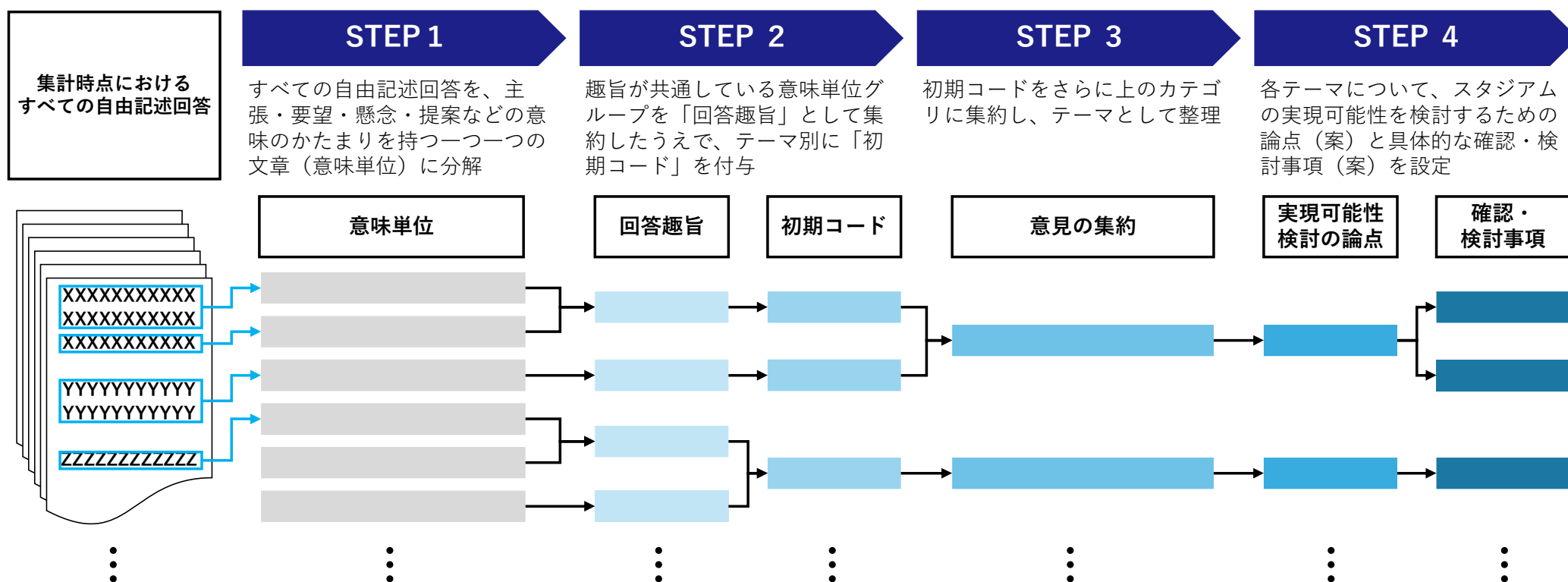
【グラフ⑥】お住まいの場所×ファジアーノ岡山の観戦頻度



※ 7月24日時点の「フットボールスタジアムの整備に関する県民アンケート調査」回答内容（全10,796件）より事務局作成

県民アンケート調査結果（確報） | 自由記述の分析方法

第3回会議資料
再掲



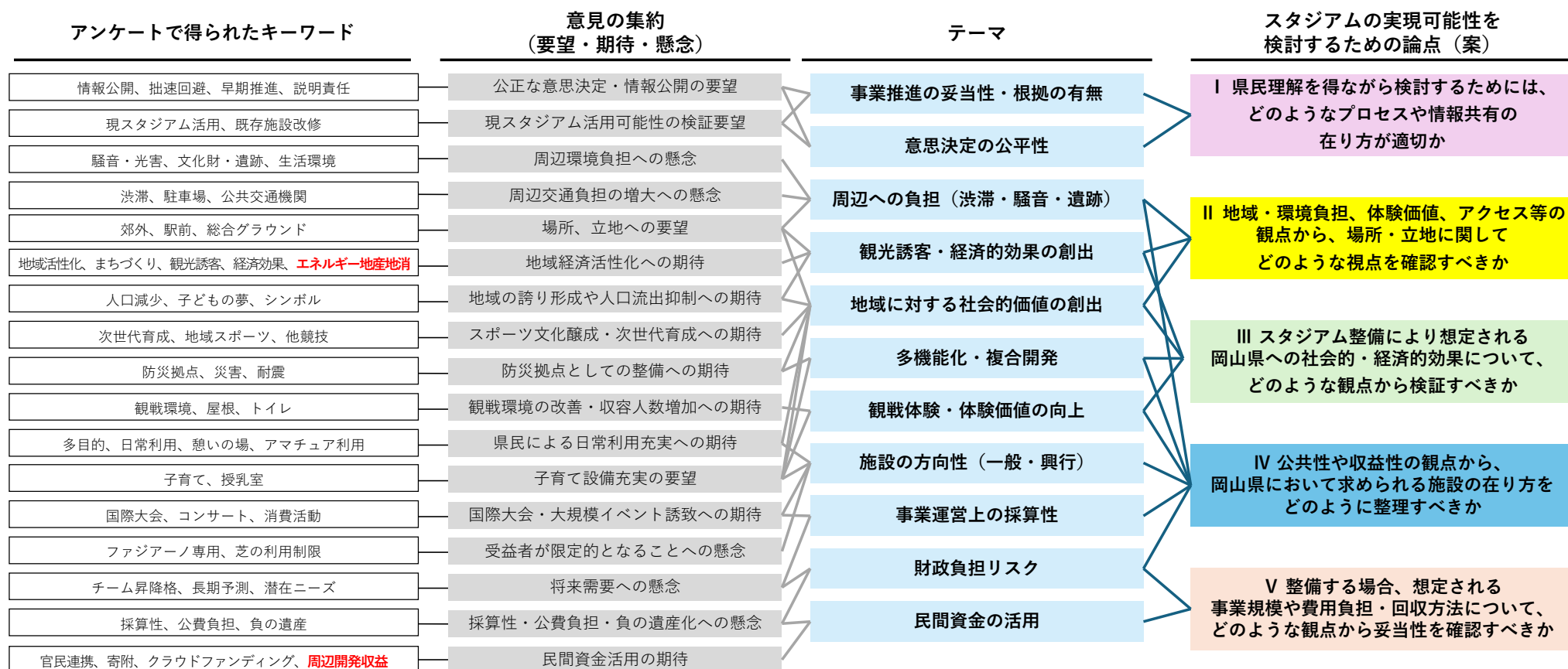
※分析方法に関する留意点

- 自由記述回答の分解・集約・テーマ付与・論点化・確認・検討事項の抽出にあたっては、適切な情報管理のもとで生成AIを活用した。

県民アンケート調査結果（確報） | 意見の構造化

第3回会議資料
更新

- 得られたアンケート回答の自由記述欄の内容を分析し、**意見を構造的に整理**した。
- 抽出された論点は、**スタジアムの実現可能性の検討にあたり協議会での議題**として想定される。



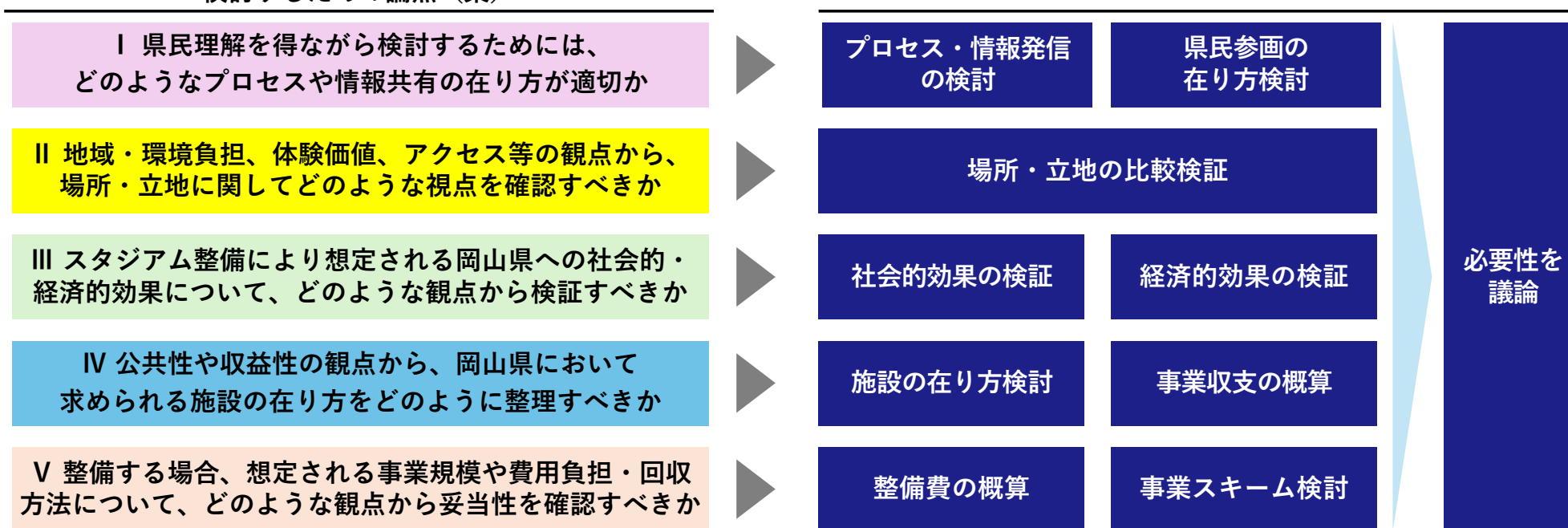
県民アンケート調査結果（確報） | 自由記述から得られた考察

第3回会議資料
再掲

- アンケート回答では、スタジアム整備に対する賛成・反対の声だけでなく、懸念されている問題や期待する点、また具体的な提案に至るまで幅広い意見が集まっているといえる。
- 今後の検討協議会では、各論点を「実現可能性の取りまとめに向けた確認・検討事項」に落とし込んだ上で、今回寄せられた県民の方々の意見を踏まえて丁寧に議論していくことが考えられる。

スタジアムの実現可能性を 検討するための論点（案）

実現可能性の取りまとめに向けた確認・検討事項（案）



県民アンケート調査結果（確報） | 結果の要旨

プロセス・情報発信の検討

県民参画の在り方検討

第3回会議資料更新

1

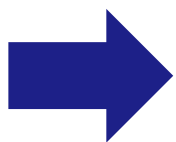
7月24日時点で、10,796件もの回答が得られており、**本件の注目度の高さ**がうかがえる。その属性を分析すると、**岡山県内の全市町村**の方が含まれており、また**サッカー・フアジアーノ岡山との関係性という観点からも幅広い層の方**が含まれていた。

2

アンケートの自由記述の内容を分析し、**意見のバリエーションを網羅的に把握**しつつ一定集約することで、現在県民の方々が**懸念している点**や、本件に対して**要望・期待する点**を抽出した。

3

上記で抽出した意見をカバーしつつ検討を進めるために、各意見をテーマごとに整理した上で、**スタジアムの実現可能性を検討するための論点を導出し**、具体的な**確認・検討事項（場所・立地の比較検証、社会的・経済的効果の検証、事業収支の概算、事業スキーム検討など）を設定**した。



今後のアンケート結果活用方針（資料3 ページ②③）

- 今回設定した確認・検討事項の議論を順次進める
- その際に、関連するアンケート回答内容やクロス集計等による属性別分析を適宜参照する
- 検討協議会ごとのテーマに沿った意見をアンケートで求める方法も必要に応じて検討する

検討の方法・目的

- 検討の出発点として、**スタジアムの新設又は改修により見込まれる効果等と、ありたい姿の方向性に関する複数のパターンを整理**した。
- スタジアムの新設又は改修により見込まれる効果等については、県の最上位計画である「第4次晴れの国おかやま生き生きプラン」に紐づく、**県の計画等で掲げる目標の達成に資するかどうかの観点からも整理**を行った。
- 今後は、実現可能性の取りまとめに向けた「確認・検討事項（案）」に沿って、**個別論点を精査・検証し、見込まれる効果等の妥当性や実現可能性を確認**する。

スタジアムの新設又は改修により見込まれる効果等

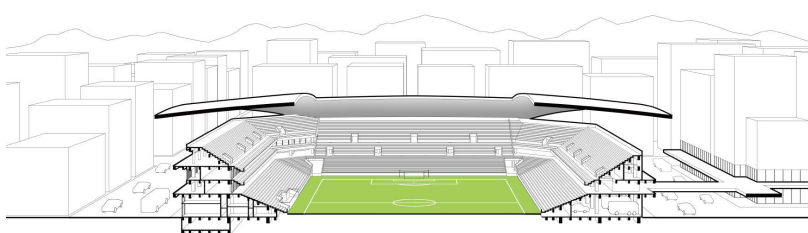
- 検討の出発点として、**スタジアムの新設又は改修により見込まれる効果等を整理**した。
- ⇒スタジアムの新設又は改修は、**県民意見・ニーズやこれまでの議論、スポーツ立県おかやまの実現に向けた有用な手段となり得る。**

新設又は改修により見込まれる効果等	県民意見・ニーズ	協議会の議論	県の計画等における方向性
 ■ 観戦機会を広げる快適なスポーツ拠点 観戦機会の拡充やスポーツの魅力発信により、県民がスポーツに触れる機会を広げる	◆ チケット不足を解消して観戦機会を広げてほしい ◆ 雨風をしのげる観戦環境にしてほしい ◆ 観客をより多く収容できる規模にしてほしい	➢ 将来、最も活用する子どもたちにとって、岡山の魅力を感じられるものとする必要 ➢ 行きたい人が観戦でき、新しい人を誘うことができる規模が必要	多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会創出
 ■ 次世代を育む競技・育成拠点 プロ・アマチュアを問わない次世代を含めたアスリートを育成する	◆ 県内のスポーツ文化や機運を高めてほしい ◆ 次世代の選手や子どもたちの育成につなげてほしい ◆ 競技力や選手育成の向上につながることを期待	➢ アマチュア利用も含めたスポーツ振興の観点からもスタジアムの新設が重要	アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築
 ■ 人を呼び、地域の活力と誇りを育む拠点 交流人口の増加や人口流出の抑制により地域を活性化させ、誇りを形成する	◆ 県外からの観光客や来訪者を増やす効果を期待 ◆ 大会やイベント誘致による集客効果を期待 ◆ 県民が誇れる岡山の象徴になることを期待	➢ スタジアムの本質的な価値は、シビックプライドの醸成等の社会的価値の創出にある ➢ 地域の文化、スポーツの拠点、象徴となるものを考える必要 ➢ もっと活気のある地域にとの県民の期待	スポーツを通じたともに生き豊かさが実感できる地域の創造
 ■ 誰もが集える開かれた多機能拠点 スポーツ施設の機能拡充と安全性向上により県民利用を促進する	◆ 災害時に役立つ防災拠点として整備してほしい ◆ 試合日以外も気軽に立ち寄れる開かれた施設にしてほしい ◆ 幅広い競技や用途に使える施設にしてほしい	➢ 50万筆の署名を踏まえた議論が必要 ➢ 複合機能化により幅広い層に魅力的な施設となる ➢ 多様な観戦の方法も組み合わせる必要	スポーツ環境の整備
 ■ 官民連携で共創する持続可能な公共施設 需要に応じた施設規模・機能を確保するとともに、官民連携等により、長期的な財政合理化を図る	◆ 完成後の維持管理費や運営費が負担にならないか不安 ◆ 税金や公費を投入することには慎重であってほしい ◆ 民間資金をできるだけ活用してほしい	➢ スタジアムの整備はエリアマネジメントの考えが必要 ➢ 建設の是非だけでなく、多機能的活用や持続可能な運営とすることが重要	公共施設の長寿命化等を計画的に実施し、財政負担の軽減等を図る

岡山県におけるスタジアムのありたい姿（想定されるパターン）

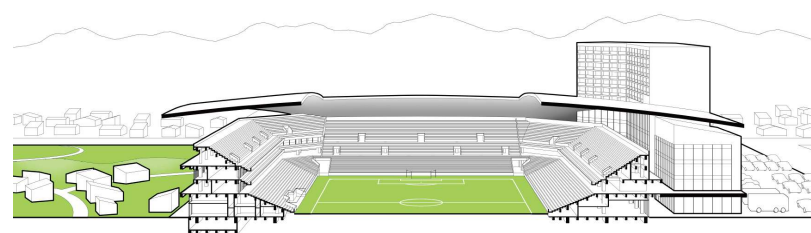
- 検討の出発点として、**スタジアムを新設又は改修する場合に想定されるスタジアムの方向性のパターン**を整理した。

A まちなか型



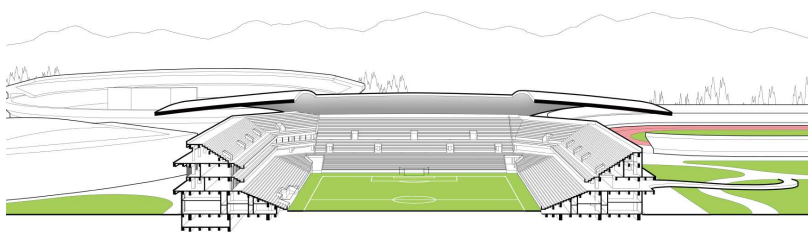
- 中心市街に地域の象徴となるスタジアムを整備する。
- まちなか主要駅～中心市街地～スタジアムの連続的な賑わいの創出を図る。

B 郊外型



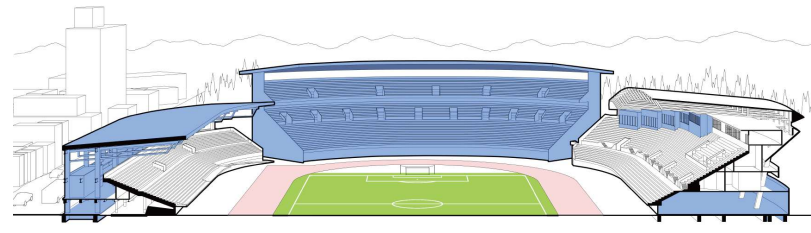
- 郊外に**周辺エリアと一体的なスタジアムを整備**する。
- スタジアムを核として新たなスポーツ・エンタメ拠点を形成し、**エリアとしての価値を創出**する。

C スポーツ パーク型



- 既存のスポーツ施設に隣接してスタジアムを整備する。
- 周囲のスポーツ施設とスポーツパークを形成し、**スポーツ拠点としての価値を創出**する。

D 現 スタジアム 改修型



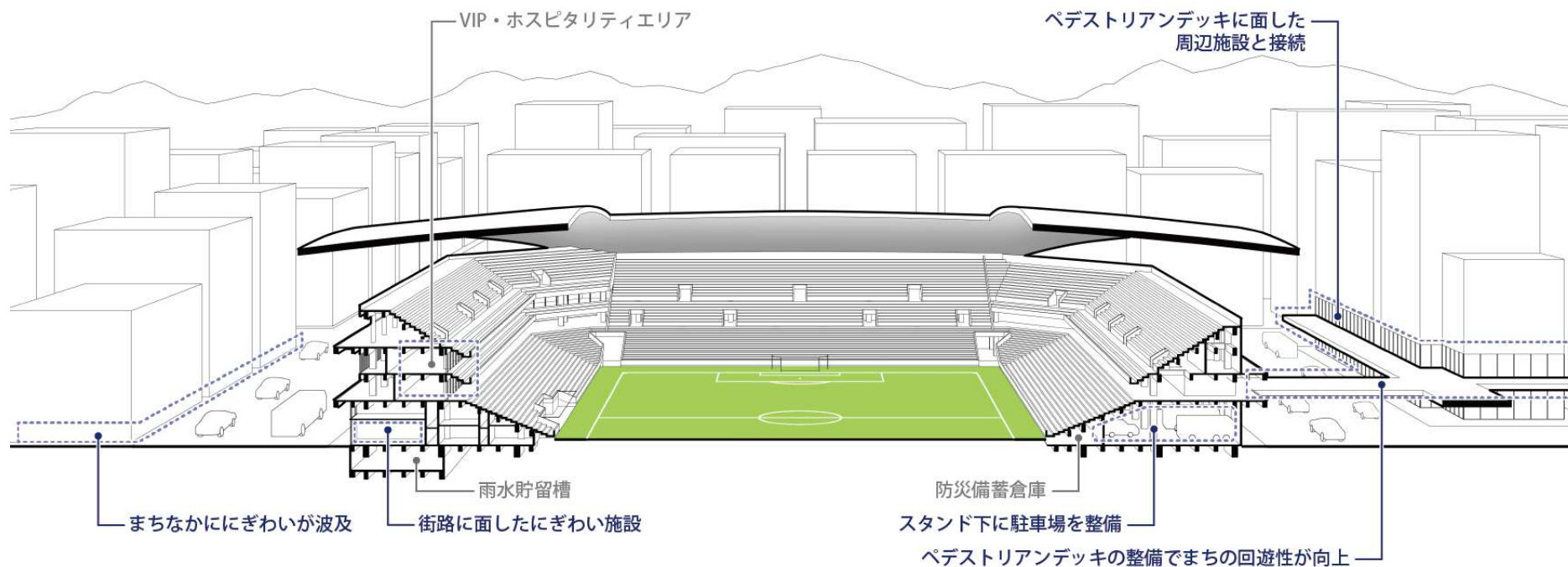
- 現スタジアムを改修する形で**有効活用**し、収容力・観戦環境・多機能性等の改善を図る。

※上記パターンは他スタジアムにおける代表的なパターンを基に整理した案であり、今後更なる検討が必要な点に留意

岡山県におけるスタジアムのありたい姿（A まちなか型）

A まちなか型

イメージ図



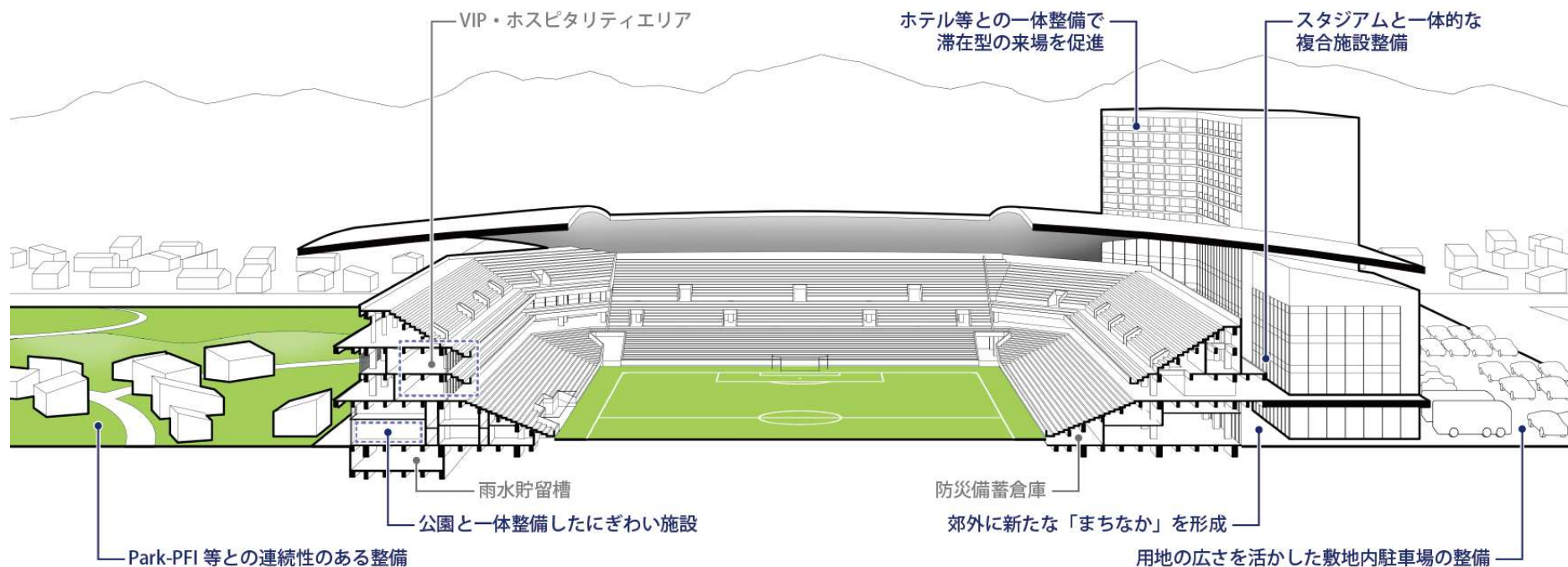
期待される主な効果： 日常利用促進、回遊性向上、複合機能化、交流人口拡大、公共交通利用促進

懸念事項・検証が必要な論点： 用地確保、周辺混雑、住民理解、都市計画等の制約 等

岡山県におけるスタジアムのありたい姿（B 郊外型）

B 郊外型

イメージ図



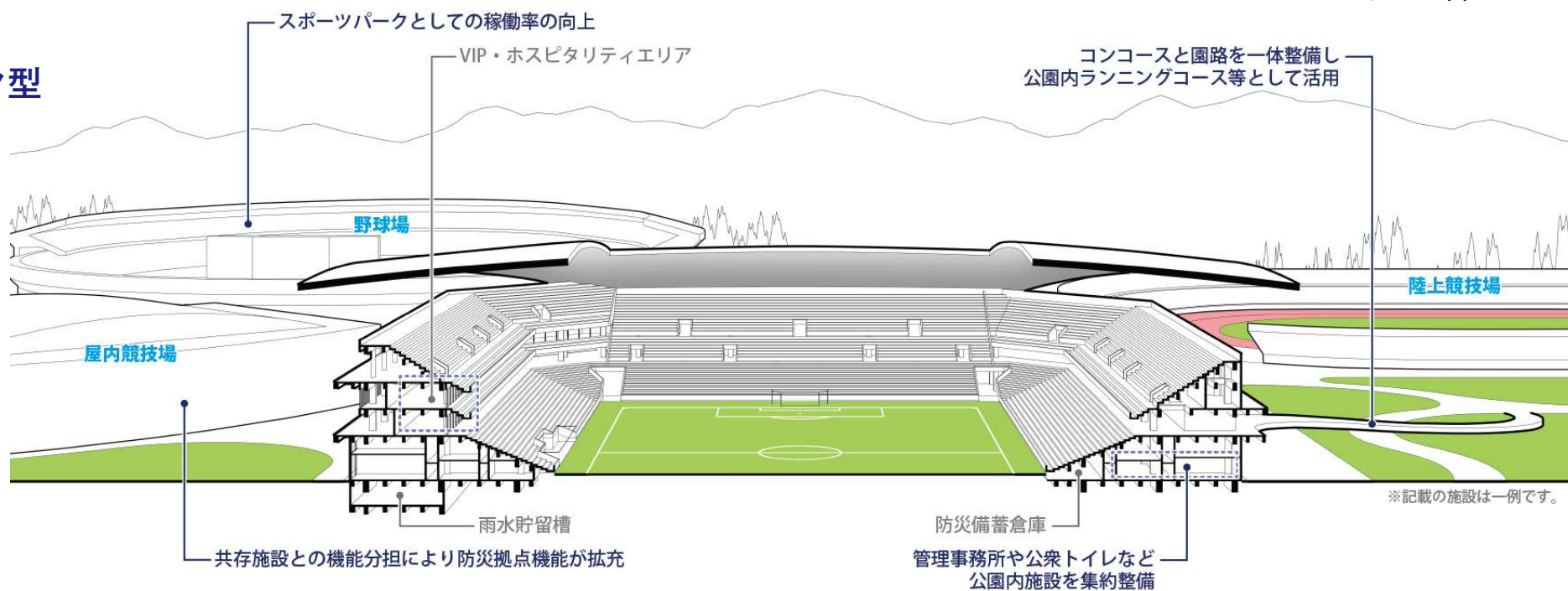
期待される主な効果 : 計画自由度、複合機能化、郊外の活性化

懸念事項・検証が必要な論点 : 開発実現性、公共交通アクセス、インフラ整備費、中心市街地への波及等

岡山県におけるスタジアムのありたい姿（C スポーツパーク型）

C スポーツパーク型

イメージ図

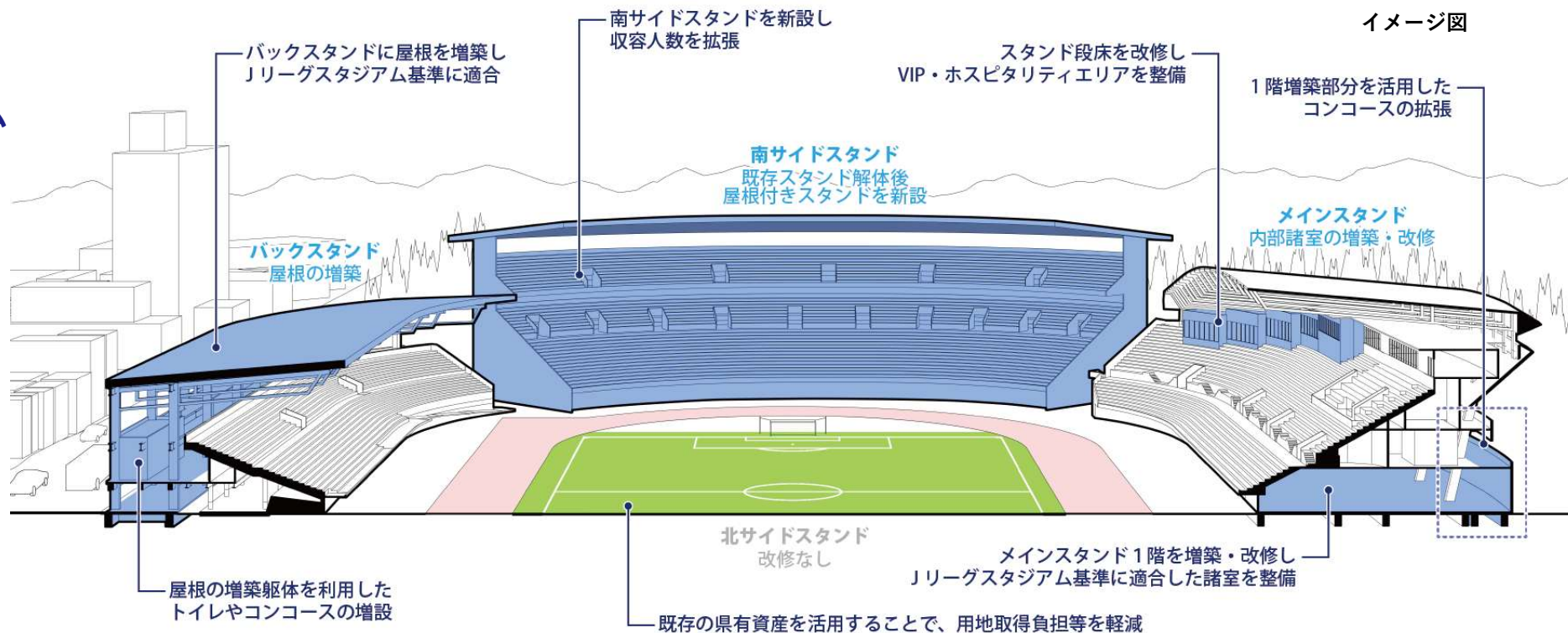


期待される主な効果 : スポーツ拠点化、相乗効果の発生、運営の効率化、イベントの多様化

懸念事項・検証が必要な論点 : 用地確保、既存施設・他競技との調整、交通問題 等

岡山県におけるスタジアムのありたい姿（D 現スタジアム改修型）

D 現スタジアム 改修型

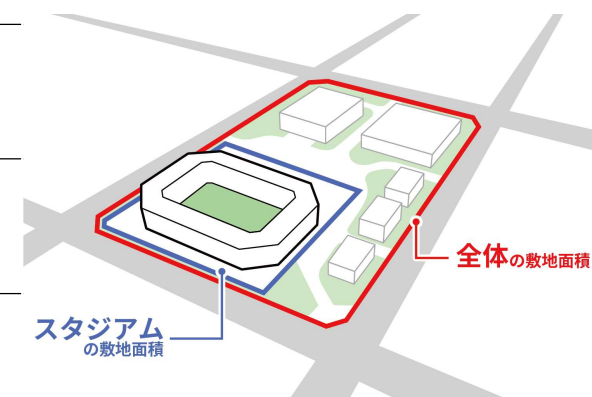


期待される主な効果 : 既存資産活用、用地取得負担の軽減、現行利用との連続性

懸念事項・検証が必要な論点 : 埋蔵文化財等を勘案した拡張可能性、工事期間中の利用制約、Jリーグ基準への適合、改修費用対効果 等

参考：国内スタジアムの規模感

スタジアム	収容人数	全体の敷地面積	スタジアムの敷地面積	交通アクセス
サングスタジアム by KYOCERA (京都府立京都スタジアム)	約21,600人	約3.3ha	約33,100㎡	JR京都駅からJR亀岡駅まで約20分。 下車後徒歩約3分
エディオンピースウイング広島 (広島サッカースタジアム)	約28,500人	約10.2ha (スタジアム+Park-PFI敷地)	約49,900㎡	JR広島駅から 徒歩約30分
長崎スタジアムシティ (PEACE STADIUM Connected by SoftBank)	約20,000人	約7.5ha	約68,700㎡	JR長崎駅から 徒歩約10分
パナソニックスタジアム吹田 (市立吹田サッカースタジアム)	約40,000人	約264.0ha (万博記念公園)	約90,000㎡	JR新大阪駅から大阪 モノレール万博記念 公園駅まで約20分。 下車後徒歩約15分
YANMAR HANASAKA STADIUM (長居球技場) (旧:ヨドコウ桜スタジアム)	約24,600人	約65.7ha (長居公園)	約38,400㎡	JR新大阪駅から Osaka Metro 長居駅まで28分。 下車後徒歩約7分
NACK5スタジアム大宮 (さいたま市大宮公園サッカー場)	約15,600人	約34.6ha (大宮公園 第一公園)	約24,000㎡	JR大宮駅から 徒歩約20分
【参考】JFE晴れの国スタジアム (岡山県総合グラウンド陸上競技場)	約15,500人	約34.6ha (岡山県総合グラウンド)	約49,500㎡	JR岡山駅から 徒歩約20分



「全体の敷地面積」と
「スタジアムの敷地面積」の違い

未利用県有地一覧（4 ha以上の土地）

場所・立地の
比較検証

No	名称	所在地	未利用面積	都市計画区域	用途地域	建ぺい率	容積率
岡山北 ー 1	元岡山フルーツフラ ワー公園予定地	岡山市北区菅野4566番 1ほか	317,529㎡	市街化調整区域	—	60	200
岡山北 ー 2	果樹団地用地	岡山市北区田原1312番 16ほか	192,851㎡	市街化調整区域	—	60	200
岡山中 ー 1	元操山地区開発事業用 地残地	岡山市中区湊字操陽南 山1345番1ほか	47,637㎡	市街化区域	第一種低層 住居専用地 域ほか	40ほか	80ほか
井原 ー 1	元広域営農団地 農道整備事業用地	井原市芳井町宇戸川字 城ノ谷2764番2ほか	80,959㎡	都市計画区域外	—	—	—
吉備中 央ー 2	元21世紀の森敷地	吉備中央町吉川長畝 4469番1ほか	295,753㎡	非線引都市計画 区域	指定なし	60	100

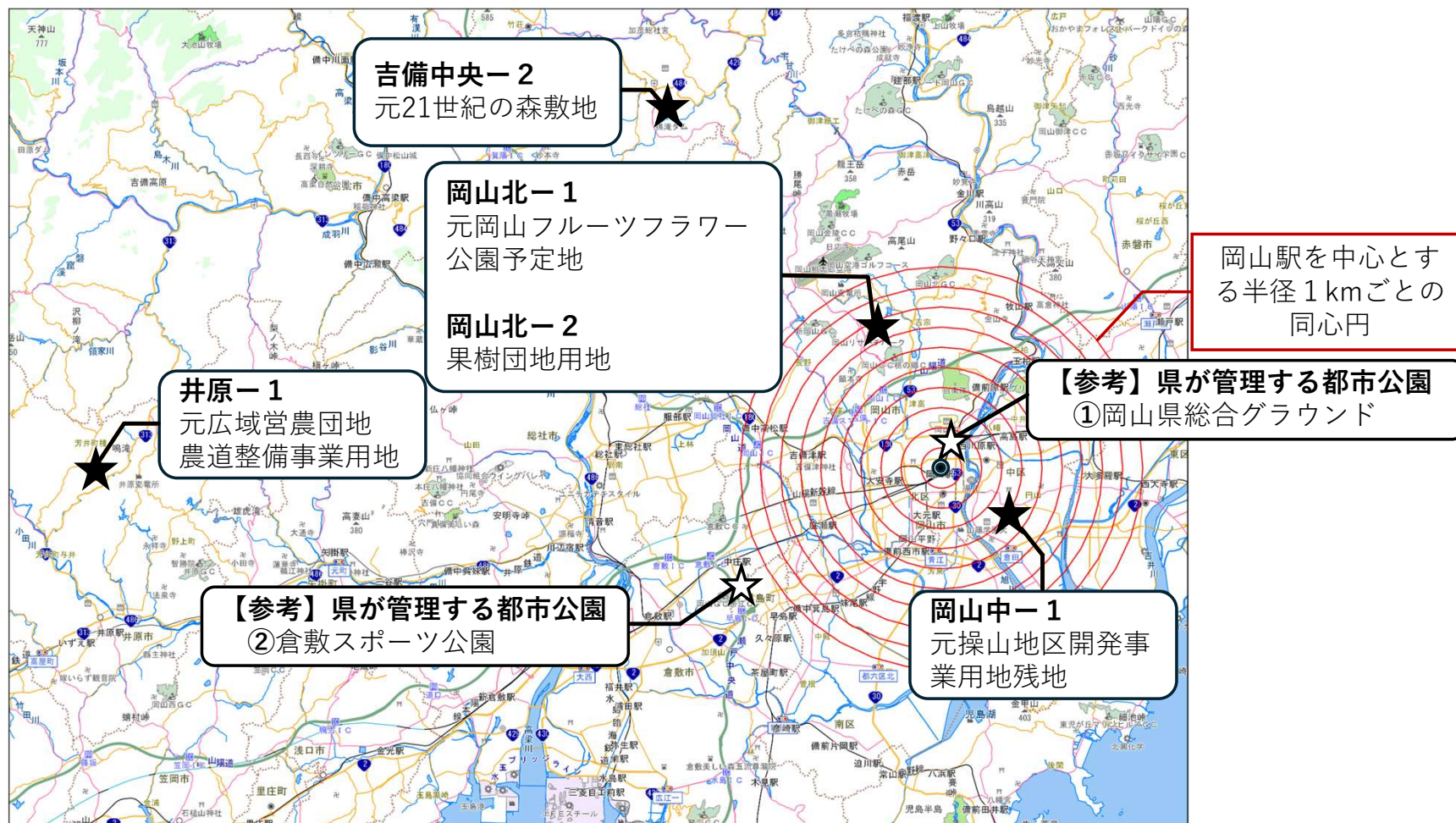
出典：岡山県総務部財産活用課ホームページ

【参考】岡山県が管理する都市公園

No	名称	所在地	面積（公園全体）	都市計画区域	用途地域	建ぺい率	容積率
①	岡山県総合グラウンド	岡山市北区いずみ町2-1	346,161㎡	市街化区域	第二種住居 地域	60	200
②	倉敷スポーツ公園	倉敷市中庄3250-1	194,000㎡	市街化調整区域	—	60	200

※岡山後楽園及び水島緑地を除く。

未利用県有地一覧（4 ha以上の土地） | 位置図



主な事業スキームの整理 | 検討概要

事業スキーム
検討

検討の方法・目的

- ・ スタジアムを新設又は改修する場合に**想定される事業スキームのパターン**を整理する。
- ・ なお、整理したパターンは他のスタジアム等の事例を踏まえたイメージであり、今後、実現可能性等を含めた更なる検証を行う。

< 想定される主な事業スキーム >

	従来 方式	DB+O 方式	DBO 方式	BTO 方式	BT+ コンセッション 方式	負担付 寄附	公有地 + 民設 民営
整備 主体	公共が整備（民間に発注）			民間が整備 （整備後、公共へ 所有権移転）			民間
運営 主体	公共が 実施*1	委託、指定管理等により民間が実施 （コンセッション方式は公共施設等運営権を設定）					民間
資金調 達主体	公共			民間*2			
民間の 自由度*3	△	○	○	○	◎	◎	◎

*1 公共による直営だけでなく、委託等による民間実施も想定される。

*2 実際の資金調達構成は、サービス購入料、補助金活用等の条件による。

*3 民間の自由度については、維持管理・運営方式等の条件による。

< 用語解説 >

D (Design) : 設計 B (Build) : 建設
O (Operate) : 運営 T (Transfer) : (所有権の) 移転
コンセッション方式: 公共施設等運営権方式

< 各事業方式と概要 >

- **DB + O方式** (Design・BuildとOperate)
民間事業者が施設の設計・建設を一体的に発注、運営は別途発注
- **DBO方式** (Design・Build・Operate)
民間事業者が施設の設計・建設・運営を一体的に発注
- **BTO方式** (Build・Transfer・Operate)
民間事業者が施設を設計・建設し、完成後すぐに公共へ所有権を移した上で民間事業者が施設の運営を行う
- **BT + コンセッション方式** (Build・Transferとコンセッション)
民間事業者が施設を設計・建設して公共へ所有権を移した上で、公共が設定する公共施設等運営権に基づき、民間事業者が施設の運営を行う

※下記整理は各事業スキームにおける一般的な例であり、各事業における実際の事業スキームは個別に構築されるためこの限りではない

主な事業スキームの整理①

	従来方式	DB+O方式	DBO方式	BTO方式
概要	- 発注者(自治体)が提示する仕様に基づき、設計・建設・運営を<u>個別発注</u>。 - 運営は公共が直営で、又は指定管理者制度等を活用して民間が実施。	- 設計・建設(DB)を一体的に発注し、<u>運営(O)は別途発注</u>して実施。 - DBOと異なり設計・建設契約と運営契約を分離。	- 設計・建設・運営を<u>一体的に発注</u>。 - BTO方式と異なり、資金調達は公共が実施。 - PPP/PFIで採用事例が多いスキームの一つ。	- PFI法に基づき<u>民間が資金調達を行い</u>、民間が施設の設計・建設を一体的に実施。 - その後、<u>所有権を公共へ移転したうえで、民間が運営を実施</u>。
簡易スキーム図(主な事例)	公共 それぞれ個別発注 設計 建設 運営 民間 所有 ※運営が直営の場合もあり 整備・運営 (サンガスタジアム by KYOCERA)	公共 DB契約 (設計・建設一括発注) 個別発注 設計・建設 運営 民間 所有 整備・運営 (エディオンピースウイング広島)	公共 DBO契約 (設計・建設・運営一括発注) 設計・建設・運営 民間 所有 整備・運営 (カクヒログループスーパーアリーナ)	公共 ①事業契約 ②所有権の移転 ③指定管理等 設計・建設・運営 民間 所有 整備・運営 (きたぎんボールパーク)
想定されるメリット	- 公共が事業全体を管理しやすく、<u>仕様や運営方針を柔軟に変更できる</u>。 - 発注手続や運営ノウハウが確立されており、導入しやすい。	- 設計・建設(DB)を一括発注することにより、<u>建設段階を見据えた設計が可能</u>。 <u>設計・建設と切り分けて運営者の選定等を行うことが可能</u>。	- 整備から運営まで一体的に実施することで<u>事業全体の最適化が可能</u>。 - 運営ノウハウを施設整備に反映し、<u>公共サービスの向上、ライフサイクルコストの縮減等</u>が期待できる。	<u>公共性を確保しながら、設計・建設や運営に民間ノウハウを活用</u>できる。 - 民間側で資金調達を行うため、<u>公共の費用負担の平準化が可能</u>。
想定される留意点	<u>設計、建設、運営が分断される</u>ため全体最適が図りにくい。 <u>公共のマネジメント負担</u>が大きい。	運営者が未定の中で、発注者である公共側で<u>詳細な公募条件の設定が必要</u>となる。	<u>設計前に施設の運営に関する業務内容も含めて、公募条件に定める必要</u>がある。	- 一般的に、PFI法に基づく公募手続きには時間を要する。 <u>設計前に運営に関する業務条件を含めて公募条件を設定する必要</u>がある。

※下記整理は各事業スキームにおける一般的な例であり、各事業における実際の事業スキームは個別に構築されるためこの限りではない

主な事業スキームの整理②

概要

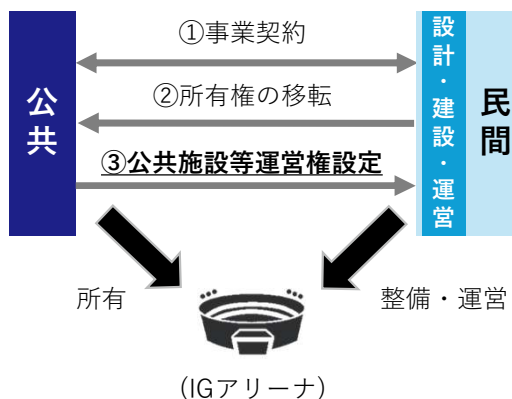
簡易スキーム図 (主な事例)

想定される メリット

想定される 留意点

BT+コンセッション方式

- PFI法に基づき民間が資金調達を行い、民間が施設の設計・建設を一体的に実施。その後、**所有権を公共へ移転したうえで、民間が運営を実施。**
- **公共施設等運営権の設定**により、民間は運営に加え、施設を活用し収益を得る権利を得る。

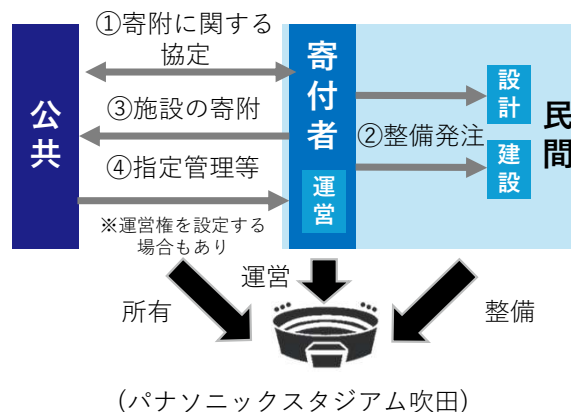


- **料金変更や施設の更新投資、ネーミングライツ等、民間の自由度が高く収益性の向上やサービス向上につながることが期待できる。**
- **長期的な視点で、民間による積極的な投資や運営改善が期待できる。**

- 一般的に、PFI法に基づく公募手続きには時間を要する。
- **公共性と収益性を両立させたいうえで、公募条件等を設定する必要がある。**

負担付寄附

- 民間が施設整備を行った後、**公共に施設を寄附。**
- 寄附の対価 (= 公共の負担) として、民間が指定管理者制度やコンセッション等により運営を実施する場合がある。



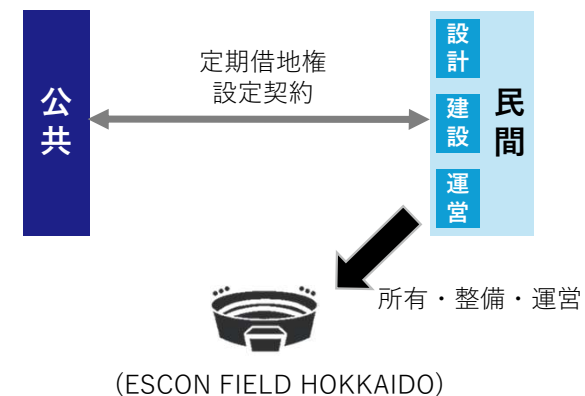
- 民間が自らの資金で施設を整備^{※1}するため、**公共の初期投資負担を大幅に軽減**できる。
- 運営を見据えた民間視点の施設整備が期待できる。

※1: 公共が補助金等を活用し、一部費用を負担する場合もあり

- 施設仕様や事業方針に**民間意向が強く反映される可能性**がある。
- 活用可能な国庫補助金等が限定的となる可能性がある。

公有地+民設民営

- **民間が公有地を借地し、これを底地として整備・運営。**
- 借地期間満了後の取扱いが契約条件による。(解体撤去が一般的)



- 施設が完全に民設民営の場合、**公共の負担を大幅に軽減**できる。
- 公設と比べ、**より一層民間の自由度が高い整備・運営が期待**できる。

- 事業採算性の確保が難しい施設や地域では成立しにくい。
- **公共ニーズを十分に反映するために、契約や協定による公共性の担保が必要**となる。

県外施設視察の実施報告

当協議会の勉強会として、次のとおり県外施設の視察を実施した。

- 1 日時 令和8年8月8日（土） 15時50分から
- 2 視察先 エディオンピースウイング広島（広島市中区基町15-2-1）
- 3 参加委員 池田委員、上林座長、西明寺委員、堀委員（計4名）
- 4 視察目的



- ・周辺地域との連携や多目的利用に向けた取組、整備に当たっての事業スキーム等の調査
- ・スタジアムが「周辺の公共空間とシームレスに接続された都市の結節点」として有する、多角的な公共的役割等の確認

5 視察概要（案内・説明：サンフレッチェ広島株式会社、株式会社東畑建築事務所の担当者）

視察や説明聴取を通じて、主に次の3点を把握し、スタジアム整備の検討に資する実践的な示唆を得た。

- ・スタジアムを、広場・周辺公共空間と一体で活用する**まちなか拠点**として整備・運営する考え方
- ・**DB方式とPark-PFI、指定管理**を組み合わせた整備・運営スキームや、寄附金等を含む資金調達の考え方
- ・スカイボックス、キッズルーム、防災備蓄倉庫等の配置を通じた**収益性と公共性を両立する多機能運営**の実態

次回開催予定

第 5 回会議

- 開催日　：令和 8 年10月30日（金）
- 開催場所：岡山県庁 3 階大会議室